

とし。ばい。俗語也、行年をいへば、年齢の排行なるべし。

〔運歩色葉集〕登年強年弱

〔俚言集覽〕年強年弱、春夏に生る、を年強といひ、秋冬に生る、を年弱と云、鷹筑波、數の子

は皆年づよか今朝の春、小町踊春上けふさくは年づよなれや花の兄望一

〔二中歴〕五七竹馬八知父九知禮十擲卵入學、廿擲角建業、卅成立達業、卅不惑絕惑、

五十養命始衰、杖家、六十耳順丁年、辨風霜、養國、七十懸車致仕、徒心、養學、時制、八十鳩毛及

拜君命、月制、非人不煖杖朝、九人受雖得人不煖使

卅為始事父母、冊以往為中仕官政、七十為終致仕、十有五志學

〔倭訓栞〕前編十六つ、俗に十歳廿歳をつはたちといへり、文選に十をつと訓ず、騎射にも

五度の十といふ事見えたり、とをの轉音也、姓には廿木と書て、つゞきとよめり、

〔倭訓栞〕中編十九はたち、廿歳をいふは、はたはふたと通ず、ちはとし也、

〔台記〕保延二年十一月六日庚午、入夜、孝能申云、基俊之孫、能仲之子也從下五位之勞、廿八年、齡過強、仕位耻蓬

衝、略下

〔陸奥話記〕是時官軍中有散位佐伯經範者、相模國人也、將軍賴義厚遇之、軍敗之時、圍已解、纔出不知

將軍處、中經範曰、我事將軍已經卅年、老僕年已及耳、順將軍齒亦逼懸車、今當覆滅之時、何不同命

乎、地下相從是吾志、還入賊圍中、

〔運歩色葉集〕暹米年、日八十八止也

〔空穂物語〕藏開上「うへのおとゞみ給て、御返しかしこまりてうけたまはりぬ、こゝにさぶらふ

ことはななかつた、のあそむの、又なき事におもひ給て侍めりしかば、なん、なにのかずなるべき身

には侍らねど、さうやくをももるともにと思給へてなん、さまぐ、にとおほせごと侍は、なに事